人・農地プランの「実質化」に伴う「話し合いの場」会議結果（山西・川匂地区）

日　時：令和３年 12 月 16 日（木）　午前 10 時 00 分～正午
場　所：入川匂老人憩の家（広間）
参加者：山西・川匂地区内で農地を所有又は農業を営んでいる方 14 名
（うち認定農業者２名/新規就農者１名/農業委員４名）
事務局：都市部産業振興課長/農林水産班長/農林水産班担当/農業委員会事務局担当

（１）人・農地プランの「実質化」に伴う「話し合いの場」の趣旨について
『農地状況地図図面（現在）及び農地状況地図図面（10 年後）』について説明
『人・農地プラン作成のためのアンケート集計結果』について説明

（２）中心経営体への農地の集約化に関する将来方針（案）について
地域のコーディネーター（山西・川匂地区の農業委員）による進行

【協議結果】
・山西・川匂地区における中心経営体への農地の集約化に関する将来方針案の決定
・山西地区：釜野集落周辺の現状後継者がいない農地については、同地区内において耕作を営む認定農業者の営農による維持並びに、農業を主たる目的として交流活動等を行う NPO 法人を中心に農地の利用集積を図る。
吾妻山西部の山麓周辺は、就農に意欲的な方が活動できる体験の場としての活用等を勘案しつつ、町が管理するふれあい農園や NPO 法人の管理農園の利便性を高めるための検討（駐車場整備等）を行う。
・川匂地区：入川匂集落周辺の現状後継者がいない農地については、地権者や近隣住民との共存に配慮しつつ、新規就農者への農地の斡旋を検討する。
現状後継者がいる農地については、同地区内において耕作を営む認定農業者の営農による維持及び後継者の営農による維持を図る。

【意見等】

・農地を貸付ける地権者の立場からすると、農地が適正に管理されなかった場合、周辺に迷惑が掛かるのではないかという不安が残るため、利用集積を図るには、適正な管理がなされなかった場合の対応（指導やサポート）も必要になる。

・健康志向や環境意識の高まりから無農薬栽培や地場産に対する関心も増えており、自然農法や有機農法による耕作を望まれる就農者が多いが、旧来からある慣行農法に馴染みを持つ農業者や近隣住民からは、草刈りが不十分と認識されることも少なくない。借り手と貸し手のみならず、周辺とのトラブルを未然に防ぐためにも、集積を図る際には、地元の農業委員の仲介による地権者との顔合わせ等を通じて、不安の払拭に努めた方がよい。

・農家に定年はないと言っても、サラリーマンから定年後に農地を本格的に引継いで耕作を開始するケースは多い。農業の未経験者がゼロから始めて農地を適正に管理することは難しいので、馴らし運転のためにも、定年前の後継者を対象にした講習会を開催すること等を検討してはどうか。

・農業振興を図るためには、将来的に農業を担う若い層が農業で食べていけるだけの収益があげられるような仕組みでなければならない。農地所有者の多くが自家消費であると思うが、自家消費だけでは長続きしないので、計画性を持った事業化等、持続可能な農業振興の体制づくりが求められる。

・農家のほとんどが兼業農家であり、専業農家は僅かである現状を踏まえると、農業振興を図るより、遊休荒廃化の防止を優先する必要があるように感じる。二宮町は都市近郊にあることから、移住者による農業ニーズが高く町の魅力の一つであるが、昨今では新型コロナウイルス感染症による影響等から、健康志向への関心が高まりを見せているので、農業体験等を通じて新たな就農者の獲得に繋げてはどうか。

・子育て世代の幼少期からの農業体験ニーズは高い。山西地区の吾妻山周辺にはNPO法人による管理農園の他、町が管理する一般市民向けの「ふれあい農園（特定農地貸付法による貸農園）」が集中しているので、体験学習の場としてはどうか。

・大規模な耕作を行う就農者は少ない傾向にあるが、援農として耕作を行うセミプロの層は多いと思うので、就農に意欲的な方が活動できる体験学習の場とするのであれば、地元の理解は不可欠なので、共存できるような配慮を心がける必要がある。

・活動の場とするのであれば、利便性を向上させるため、農道の拡幅はしないまでも一部の農地において駐車場を整備する等、インフラ整備についても検討してほしい。